

臘扇忌法要御案内

——清沢満之先生 一一三回忌法要——

向暑の候、皆様におかれましては、ますます為法精進のこととお慶び申し上げます。

さて、本年も難度会主催の臘扇忌法要の御案内ができる運びとなりました。平成元年、親鸞聖人の『教行信証』を輪読すべく、大阪教区の若手僧侶が集い合って発足した難度会も、試行錯誤を繰り返しながら、昨年で二十五周年を迎えることができました。また、平成九年の九十五回忌を皮きりに、毎年、難波別院の御厚意のもと、臘扇忌法要をお勤めしてまいり、これまでに十八回、十七人の御講師に出講たまわった次第です。これほど長く会が存続し、臘扇忌法要をお勤めしてまいれたのも、ひとえに御講師たち、並びに聴衆方の御理解と御協力の賜物と感謝しております。

しかし、毎回、貴重なお時間をいただきながらも、難度会では、次年度の臘扇忌法要の記念品とすべく、毎年、講義録は作成してまいりましたが、それを用いて会員同士が清沢先生のことをさらに深く学び合うようなことはしてきませんでした。この間、御講師の先生たちの中には、既に御還浄あそばされた方もいらっしゃいます。発会二十五年の節目を迎え、御聴講の皆様と共に、御講師たちの、いつまでも色褪せることのない清沢先生理解をもう一度聞き聞く機会に本年度の臘扇忌法要を充てたいという機運が、会員の中から自然と高まってまいりました。

そこで、本年度の臘扇忌法要は二部構成とし、先ずは「先師の口伝を承って」というテーマのもと、歴代の難度会代表が、御来場の皆様と改めて聞き合いたい御講師たちのお言葉を掘り起こし、それぞれ提言してまいります。その後、清沢先生のお寺である、三河西方寺の現住職・清沢聡之師にもお加わりいただき、発表者の了解や、最新の研究なども踏まえた清沢満之先生の姿を、シンポジウム形式で模索してまいります。御参集の皆様も、どうぞ積極的に御発言ください。

例年とはいささか趣向が異なるものの、先師のお言葉を改めて聞いていくことも大切だと思います。本年も、皆様のお参りを、心よりお待ちしております。

合掌

平成二十七年六月一日

難度会会員一同

住職・教会主管者及び関係各位

記

日時	平成二十七年七月八日(水)午後六時～八時半
場所	難波別院 同朋会館講堂
参加料	千円(記念品代含む)
主催	難度会
後援	難波別院

難度会会員

稲垣直来、大橋恵真、奥野賢(事務局)、小谷淳也、後藤裕司、佐野元直、竹中光史、竹中慈祥、当麻宏文、中尾哲、長洲真史、難波教行、西受秀文、橋田尊光、橋本知良(代表)、秦真哉、林一信、原田祐生、藤井紀安、前田慈之、松井聡、間野功雄、森川徹、安間観志(会計)、山雄竜鷹、山口知丈

※お問い合わせ先

難度会事務局 念通寺内(奥野)〇七二―二六五―二二二一まで